

ローマ人への手紙 第5章 5節

「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

黙想 107 で取り上げた聖書箇所であるが再び向き合いたい。希望が無くては今日を生きる力が失われる。だから、ここでは、この希望は失望に終わることがありません、と釘をさしている。盤石の希望である。今日を生きられる。そして、明日への活路があるということだ。

この聖書が語る事柄でさらに目を向けたいのは、希望を将来だけのこととして語っていないことである。希望は、確かに将来に関わる約束のことではあるが、それだけではないということだ。明日への希望は今日生きる力となるが、それだけではないと言う。このことは、落胆しつつも今日を生きる者にとって大事なことである。今が明日につながっている、と単純に、安易に将来を希望の名のもと語れば良いと言う訳にはならないということだ。今を生かし、かつ将来が盤石な希望が必要である。

だから、聖書は語る。「私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」今、すでに与えられている聖霊がある。今、すでに体験している神の愛がある。今と将来を繋ぐ聖霊を受けた。